

一問一答

鍵山相談役への質問

【心の荒みをなくすとは】

人間にはいろいろな欠点があります。その中で許される欠点と許されない欠点があって、許されない欠点は卑しい生き方、これは許されぬですね。もう一つは心が荒んでいくこと。これは大変なことで自分が不幸になることだけでは済まない。周りの人を不幸にする、社会を暗くする、悪くする。大変なバイ菌をまき散らしているようなものなんです。この荒んだ心をどうやって穏やかにするか。これはいろんな方法があるんですけども、まず自分を取り巻く環境をきれいにしていく。自分を中心にして直径3mからきれいにしていく。5m、10m、20mと広げていくんです。最初からいっぺんに大きな範囲をやるうとすると失敗するんですね。小さい範囲で取り組んで、徹底してやり遂げる。やり遂げたらそれを広げていくことが大事ですね。周囲がきれいになってくると不思議と心が落ち着いてくるようになるんです。イライラしたとき、苦しんだとき、悩んだとき草取りをしてみてください。いつものまにか夢中になって草取りをするということがありますね。自分を中心にした小さい範囲を徹底的にきれいにしていく。そうしますとある日突然同調してくれる人が現れるんです。一人が二人になったということは二倍ですよ。二人が三人なると1.5倍ではなく三倍、四倍になるんですね。社会から人の心のすさみを取っていくことが日本を良くする最も大事なことだと思

ます。もう一つ、心の荒みを良くする方法は楽しみを先に持つということ。昔の人はものを買うにしても現金がなかったら買えなかったものでしたから、いろいろ欲しいものがあっても、そのお金が貯まるまで我慢したんですね。靴一足でも洋服一着でも買えたらいいなど楽しみが先にあった。貧しくても心が穏やかだったんですね。今はお金がなくてもすぐ物が手に入ってしまう。そうしますと、先の楽しみがなくなってしまうんですね。だからみんな、心の余裕がなくなってきました。先に楽しみをもつことと徹底した掃除を取り組んでいただく、必ず自分の心が穏やかに、周囲の人の心も穏やかになれると思います。少なくとも私はこういうふうな心がけているんです。鍵山という人間に会ったら腹が立ったという人生にはなりたくないですね。でも世の中にはいっぱいいますよ。今日も新横浜から自由席に乗ったんですけども、窓際に座った人が真ん中の席に荷物を置いてその荷物が通路側の席まではみ出しているんです。そうしますと、一人で三人分です。席を塞いで平気でいるんですね。私はその出っ張っている荷物をみて、「ここ誰か来るんですか？」と言ったら、渋々と私の顔をじろつと見て荷物をどけたんですね。本人は大して悪いことをしているようには見えませんが、ある意味では殺人を犯すよりたちが悪いと思います。そういうことは恥ずかしいことだ、卑しいことだと思えるような世の中にしていきたいですね。

【編集後記】掃除に学ぶ会は学校のトイレをお借りして実施されることが多いが、この活動が始まった頃は「日本を美しくする会」「掃除に学ぶ会」は認知されてなく会場を決めるのに苦労したと聞いている。今では環境美化活動の一環としてこの活動を取り入れる学校が増えてきている。今号の便教会新聞に登場してくれた生徒の文を読むと、トイレ掃除に嫌悪感や反発を抱いていたことがわかる。初めて掃除に参加する生徒の多くは自主的ではなく、部活動の顧問、担任教師からの話で参加していることがわかる。「話」と書いたが、実際は説得であり、生徒にとっては圧を感じるかもしれない。ここが大事なところで、単なる圧力（強制）で生徒を動かすのではなく、熱のこもった話で生徒をその気にさせることが教師の資質向上となる。高い熱量で話すにはそれなりの裏付け（実践）がなければならぬ。教科指導は教科書を使って教えることができるが、掃除指導には教科書はない。ネットで調べた掃除の効果を受け売りしても生徒は響かない。教師が主体的に掃除に取り組み、学び、気づきを深めると、汚れに応じて臨機応変に対応していく力が備わり、養われる。この力こそ生徒を導く力の基となる。教師の最大のサービスは教師の資質向上である。便教会活動は教師の資質向上の大きな糧である。世の中が多様化しても掃除は不易である。「掃除」が当たり前になり、先生が生徒を説得しなくても、生徒が自主的に参加する時代が来ることを願っている。 高野修滋 拜

便教会新聞

第173号

令和4年8月

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高め

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五一〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
T/F 〇五六三一五六―四三二七
携帯 090 - 4215 - 1727

『トイレ掃除をやってみて』

愛西市立佐屋中学校
2年 後藤 瑠那

「ボランティアでトイレ掃除をやります」と部活の先生に言われて、最初は面倒くさいと思っていました。そんなことやってるなら部活やりたいし、逆になんで私たちがやらなきゃいけないの？と思いました。そんな思いでトイレ掃除を行いました。私は便器担当で見るときは汚い、臭い、こんな所をきれいにするなんて無理でしょと自分の中ではきれいにする気なんてなかったです。掃除は少しずつきれいを広げると教えてもらったときにボランティアの方は素手でやっていて、びっくりしました。汚いの素手でやるって本当にすごいと思いました。ボランティアの方は「慣れたらできる」と言っていました。それが勇気が必要だと思いました。便器は水を抜くとやりやすい、細かく擦るとよいと教えてもらい、実際にやってみるとものすごくきれいになって、もっときれいにしてみたいと思えるようになりました。他にもいろいろ道具を長く使える方法や正しいタオル雑巾の絞りがたなど今まで知らなかったことを学びました。床や壁やパイプなどトイレの隅々

まで掃除しましたが、一番印象的だったのは便器の掃除でした。一番時間をかけてきれいにしたのが便器でした。細かく丁寧にやるのに時間がかかりましたが、黒かった部分が白くなると達成感があり、やりたくない気持ちがなくなり、トイレ掃除をやったよかったです。そして掃除は後片付けまでが全てということを知りました。ボランティアの方にそれぞれの道具にあった片付け方を教えてもらって、やっぱりそれだけ道具を大切に使われていて、掃除に対してしっかり気持ちが入っていると感じました。今回のトイレ掃除で感謝の気持ちを感じました。いつもなら何も思わずに使っていたトイレでしたが、掃除をしてみるといつもきれいなのは誰かがきれいに掃除してくれるからなんだと思いました。そのトイレがどんなに汚くても、自分が使わなくてもやってくれている人の苦労も体験できました。これからは感謝の気持ちを持ってトイレを使いたいと思いました。そして何事もそうですが、誰かの支えがあるからこそのことができることがあります。バスケの先生や家族、チームメイトのようにたくさん支えがあって成り立ちます。トイレ掃除もボランティアの方や保護者の参加、道具を準備してくださった人、このようなこ

とを計画してくださったPTAの皆さん、沢山の支えがあったので私も多くのことを学ぶことができました。トイレ掃除もやることで全てが変わるぐらいすごい体験ができました。またこのような機会があれば、次回は部活動としての参加ではなくて自分から進んでボランティアに参加したいと思います。

『心の変化』
愛西市立佐屋中学校
2年 大島 新生

佐屋中学校の皆さん、最近学校のトイレがきれいになったことに気がつきませんでしたか？実は6月18日に校内環境整備（トイレ掃除）がありました。僕は正直、自主的に参加したわけではなかったです。友達と「なんで僕たちがトイレ掃除をしなきゃいけないのか？」とか「汚いし、臭いしやりたくないよね」などとトイレ掃除には抵抗がありました。自分が担当したのはまさかの女子トイレでした。換気扇にはホコリ、そこら中にハエが飛んでいて、湿度が高いのでとても蒸し暑かったです。トイレ掃除をする気持ちを固めていましたが、どんどん緩んで逃げ出したいくなりました。消極的、

あきらめの気持ちでトイレ掃除が始まりました。リーダーの方からとても丁寧に道具の名前やその道具の使い方を説明してもらい、一つの便器を使って実践してくださいました。リーダーの方は手袋もつけず便器をこすり、何事もないように話す姿を見て、さっきまでトイレ掃除を拒んでいた自分が恥ずかしくなってきました。覚悟を決めてトイレ掃除を始めました。最初にスポンジで便器の水を吸い取り、ナイロンたわしを使って「サボったリング」という掃除をさぼっていたからできる黄ばんだ汚れを落としました。「折角やるなら最後まできっちり」とやって、このトイレをきれいにしたい」と掃除が始まる前とは別人のように黙々と掃除しました。リーダーの方に「トイレ掃除は汚れを落とすのではなく、きれいを増やす」と教わりました。便器の掃除が終わると、水を流す金属部を掃除することになりました。ホコリやカビがたくさんあつて「きれいになるのかなあ？」と心配しましたが、いざやってみると光が反射して輝くほどピッカピッカになりました。その後、壁や床を雑巾で拭きました。雑巾を見ると自分が思っていた以上に汚れていて、汚れの多さに驚きました。「壁や床のホコリやゴミはあまり目では見えないけれど、実際はたくさんホコリやゴミがついているんだよ」とリーダーさんに聞いて、見た目はきれいでも本当はもっと汚い場所があるのでは：と思います。最後はみんなで役割分担をして使った道具を洗い、掃除が終わりました。トイレをピッカピッカにできた

『驚きの連続』

愛西市立佐屋中学校
3年 伊藤 美々花

皆さんは普段トイレ掃除をしていますか？どのようにしていますか？トイレ掃除は一般的に「汚い」「臭い」「あまり掃除したくない」などといったマイナスなイメージをもたれていることが多いです。確かに実際トイレを見てみると、汚れがこびりついていて臭かったりしています。ですが、普段私たちが日常的に使っているトイレを少しでもきれいにできたらいいなあと思ひ、ボランティアに参加しました。私が担当したトイレは武道場一階のトイレでした。私が最初に驚いたことは掃除道具の多さです。皆さんは普段トイレ掃除をするとき、どのくらいの道具を使っていますか？西三河掃除に学ぶ会の道具は私たちが普段使っている道具の何倍もの数がありました。「どうしてトイレ掃除をするのにそんなに多く

見えるところだけでなく、目に見えないところの掃除も大事だなと思いました。私はこのトイレ掃除を通して、最初のマイナスイメージが汚れが取れたときの達成感や掃除が終わった後のきれいになったトイレを見て、大きくプラスに変わりました。気持ちがあがスツキリ爽快、やって良かったと思いました。これからは一つひとつの細かいところにも目を向けて、この経験を生かしながら取り組んでいきたいです。

『トイレ掃除に学ぶ』

愛西市立佐屋中学校
3年 吉村 信毘

トイレ掃除をすると聞いたとき、あまりいい気持ちがありませんでした。わざわざ部活の時間を削ってまでやることか？と部活動で参加した人は思ったかもしれせん。あんなに汚い学校のトイレを掃除するのは嫌でした。トイレ掃除の道具は工事現場にありそうなものもありびっくりしました。まずリーダーさんがお手本を見せてくれました。その時、リーダーさんの全く抵抗がないやり方にすごくびっくりしました。誰が使ったかわからない決してきれいとは言えないトイレの大便器の中に手をつ込み、汚れを取っているのを見て驚きました。自分でやってみると汚れはなかなか取れず、かなり力を入れてこすらないと落ちませんでした。掃除を始める前、複数人で掃除をするからすぐに終わると思っていたけど、いろいろな細かな場所の掃除をしたので時

の道具が必要なんだろう」と思っていました。でも、一つひとつの説明を聞いたとき、それぞれの道具には役割があることがわかりました。次に驚いたことは掃除の仕方です。私が担当した便器はサボったリングと呼ばれている黒ずみ汚れがこびりついていました。私は今までこのような汚れを取ったことがなく、取れないものだと思っていました。ですが、リーダーの方がお手本を見せてくれたときは衝撃的でした。数ある道具の中の一つを使って、洗剤をつけてこするとみるみるうちに汚れが取れていくではありませんか。リーダーさんはじめ掃除指導をしてくださる方は手袋をしていません。トイレに汚いというイメージを持っていないんだなあと思いました。絶対に取れないと思っていた便器のサボったリングも汚れを落とすことができ、大変だったけれど達成感が味わえました。他にも細かな部分を丁寧に教えてもらいました。雑巾の絞り方は、きつと多くの人が知らないと思います。私も絞り方はもちろん、雑巾に正しい絞り方があることも知りませんでした。雑巾は縦長にして、自分の身体と垂直に持って絞ります。絞るときに肘を伸ばして絞ると雑巾に力が入り、雑巾の水分がしっかりと取れます。無駄なく効率よく絞れます。このような一つひとつの細かなことを丁寧にやるのがとても大切なことなんだと思いました。そして、普段あまり気にしていなかった換気扇や手洗いの蛍光灯カバーの裏もきれいに掃除すると換気扇の動き、照明の明るさが全く違って驚きました。目に

『こうだったからこそ……』

日本を美しくする会
相談役 鍵山 秀三郎

かつて地方の地域を支えていたいくつかの大きな産業は、今は残念ながらそのいづれも地域を支えてはいない状況になっています。そうしますと、つい「こうだったからこうなった」と言うんです。例えば、私の人生、昭和8年に生まれて11歳まで欲しいものは何でもあつて、手に入る時代でした。それが11歳で戦争でこの岐阜県大正村のもう少し西に疎開をして、何も無い生活に陥りました。もう何にも無いという生活をしましたね。そうしますと、「私は戦争で疎開して、何も無いからこうなっちゃったんですよ」と言ったら人生はそれでおしまいになっちゃうんです。しかし、「こうだったのにこうなれた」何にもなかったのにこうなれた。全く原因は変わらない、同じなんです。もう一歩進めると「こうだったからこそこうなれた」原因は変わらない。途中から変わったことになりません。私はむしろ戦争で家が焼けて、ものを失って岐阜県の山奥に入って何にも無い生活をしたからこそ今日こうなれましたと言えると思います。人間の人生というものは悪いものを持ち出して、家がこうだったから、親がこうだったからとそういうことを原因にして自分の努力を怠った。怠った努力をその陰に隠すことが一番いけないことだと思います。